

# パクリタキセルを含む3泊4日の化学療法を受ける患者さんへ

【患者さん用クリニカルパス】

ID	患者氏名	様	入院当日(～治療前日)	化学療法当日	退院日
			月 日(～ 月 日)	月 日	月 日
目標	治療の経過が分かる	予定どおりに治療が終了する 症状出現時は適切な対処が受けられる			退院指導の内容が分かる
説明・指導	入院・治療について説明します。 予測される副作用および予防法・出現時の対処方法について説明があります。	点滴中、針の入っているところが痛くなったり、腫れたり、重苦しくなったら、すぐに教えてください。 ふらつき・目まい等があるときは必ず看護師を呼んでください。 副作用症状がひどいときは、遠慮せずに話してください。		<b>医師の診察後退院となります。(午前中)</b> 退院指導を行います。(生活指導や次回外来再診日の連絡) 次回から外来化学療法を行う場合は、外来化学療法室のご案内・説明を行います。	
治療処置点滴		8～10時 点滴の針を入れ準備します。 10時頃から点滴を始めます。  <b>抗癌剤の主な副作用</b> 発症時期による症状と対処方法について  【点滴開始から1週間】 投与時過敏症状 投与中あるいは投与数時間後にかゆみ、息が苦しい、発熱、汗が出るなど様々な症状が出た場合、すぐに教えてください。 はき気・嘔吐・食欲不振などの消化器症状 吐き気止めのお薬を使用します。 関節・筋肉痛 漢方や痛み止めの内服を使用することがあります。 手指のしびれ 手足のピリピリとしたしびれ、感覚が鈍くなるなどの症状が起こることがあります。 白血球減少、好中球減少 G-CSF製剤(白血球を増やす薬)を注射をすることがあります。 【数週間から数か月】 貧血 めまい、立ちくらみなどの症状があります。立ち上がる際には転倒に注意しましょう。 脱毛 治療前に必要に応じて髪を短くしたり、かつらやハンダナ、帽子などを使用しましょう。 出血 鼻や歯肉から出血がみられたり、痰に血が混じることがあります。 【その他の副作用】 動悸・息切れ 下痢 口内炎 疲れやすい 強い腹痛 味覚異常 むくみ 血管痛			
内服	現在飲んでいる内服薬の確認をします。 内服薬は基本的に継続内服とします。			必要に応じて、吐き気止めや便秘薬の処方を行います。 その他、希望がある際は、お申し出下さい。	
検査	腎臓の機能を見るために24時間尿を貯めていただきます。 <b>尿検査のため専用の個室に入院となります。検査終了後は部屋が移動になります。</b> 入院翌日朝食前に採血検査があります。 24時間尿がたまったら検査に提出します。 次の検査をすることがあります。 胸のレントゲン 心電図検査	6時 体温と血圧を測ります。  (初回のみ) タキソール(パクリタキセル)の開始から30分間、心電図モニターを装着します。開始する前と開始5分後、10分後、15分後、30分後、終了時に血圧を測ります。		外来で採血をして、骨髄抑制(白血球減少、貧血、血小板減少)の有無を確認します。 白血球減少が認められた場合は、次回の化学療法を延期し、G-CSF製剤(白血球を増加させる薬)を注射します。 うがい、手洗いをし、マスクをつけ感染予防をしてください。	
食事		食欲に応じて食事変更が出来ますので、医師・看護師にお話ください。		化学療法によって、食事の制限はありません。 通常通りに摂取して下さい。	
生活・行動	特に制限はありません。	特に行動制限はありません。		特に行動制限はありません。	
清潔	シャワー浴ができます。	点滴治療中以外は、シャワー浴ができます。 点滴の針が濡れないように出来ますのでシャワー浴のときはお知らせください。		ご自宅でも 入浴、またはシャワー浴ができます。	
その他	入院後に熱が出た場合は、化学療法を延期し一度退院していただくこともあります。 入院に、付き添いは必要ありません。	抗癌剤点滴開始初期(特に10分以内)に発疹や顔が赤くなってほてるなどのアレルギー症状が現れることがあります。ほとんどは一時的なものでおさまりませんが、症状が出現した場合は申し出て下さい。		退院後、外来で採血検査を行います。必ず受診しましょう。 38.5℃以上の発熱があった場合には、受診するようにしましょう。 また、その他にも気になることがございましたら、お電話下さい。	

注) 予定は現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わることがあります。

岩手医科大学附属病院

産婦人科